

## ●みやこさいがいエフエム

同局は当初、高校総体の実況中継を目的に開設準備が進められていたが、震災を機にいち早く臨時災害FM局に切り替え、放送を開始した。その試みが高く評価され、ドイツのラジオ局レーゲンボーゲンから名誉賞を受賞。パーソナリティが代表して二名、ドイツでの授賞式に出席した。

運営は宮古コミュニティ放送研究会が担う。番組はラジオのほか、ユーストリームでも試聴可能だ。



インタッチが第1回目に被災地を訪れた3月22日に放送が開始された。



5月に再び訪問した際のスタジオ内。



避難所や公共施設など至るところに同局のポスターが見られた。

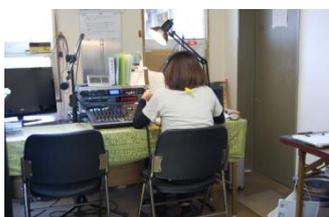
## ●エフエム・ワン

内陸部に位置する花巻市のコミュニティFM局。発災後しばらくの間は「はなまきさいがいエフエム」として、配信エリアを拡大して災害情報を放送。



約一ヶ月後に従来の放送に戻ってからも、災害関連情報を発信し続けるなど沿岸部の支援に尽力した。

## ●おおふなとさいがいエフエム



高台にあり被災を免れた大船渡市役所内にスタジオを構える。パーソナリティは被災者が担当。当時は陸前高田市向けにも周波数があり、同市が毎日発刊していた災害状況を伝える広報紙なども放送していた。

## 支援隊の活動②

# ラジオを通じた長期「情報支援」活動

### 第3回 平成23年5月17日～19日

---

### 緊急告知防災ラジオの配布

大きな災害が発生した際には、情報の入手手段に限られる。特に視覚障害者を含む情報弱者と呼ばれる人たちは、震災時には過度の情報不足に陥る。

インタッチは5月17日から19日にかけて、第3回目となる支援隊を派遣。視覚障害者にとって有効な情報源であるラジオを、兼藤産業株式会社（代表取締役 後藤欣哉）・URO電子工業株式会社（代表取締役 宇呂嘉晃）の2社に提供していただき、被災地のFM局などを通して配布した。

#### ●防災ラジオの提供者



インタッチが被災地で配布した防災ラジオ。電源がオフの時でも緊急放送を自動受信し、最大音量で知らせてくれる。



兼藤産業（株）  
後藤欣哉 代表取締役



URO電子工業（株）  
宇呂嘉晃 代表取締役

#### ●防災ラジオの配布先

所在地	配布先	台数
宮古市	みやこさいがいエフエム	140
	宮古市社会福祉協議会	5
	宮古音声訳の会	10
大船渡市	おおふなとさいがいエフエム	50
	せきれい	50
陸前高田市	災害対策本部	100
	陸前高田災害FM	100
花巻市	エフエム・ワン	20



みやこさいがいエフエム  
佐藤省次 事務局長



(右) 大船渡市企画政策部秘書  
広聴課広報係 係長 高橋大介氏  
(左) おおふなとさいがいエフエム  
運営責任者 佐藤健氏



エフエム・ワン  
落合昭彦 放送局長

## 震災から2ヶ月が経過した被災地の様子



沿岸部の宮古市鉾ヶ崎地区では瓦礫の撤去作業が進んでいた。



間仕切りが設けられた避難所。「世界一」の防潮堤を越えて津波が押し寄せた宮古市田老地区にて。



仮設の陸前高田市役所。



陸前高田市の仮設住宅。

## 支援隊の活動②

# ラジオを通じた長期「情報支援」活動

### 第4回 平成23年9月27日～29日

## 防災に関する打合せ・意見交換

9月27日から29日まで、花巻市・大船渡市・宮古市で市役所や地元の放送局を訪れ、緊急告知防災ラジオの配布手続き、それにとまなう自動起動装置の使用説明、防災対策に関する打合せなどを行った。

### ●花巻市



放送局エフエム・ワンと打合せ。



花巻市役所と打合せ。

### ●大船渡市



おおふなとさいがいエフエムにラジオの自動起動装置を配布。

### ●宮古市



みやこさいがいエフエムにラジオの自動起動装置を配布。



左) 緊急告知防災ラジオ（手前、白）の自動起動装置（奥、黒）について、配布先にて説明を行った。